

# 2022年 県下一斉タカの渡り調査 報告

## 前書き：田川

今年の「福井県下一斉タカの渡り調査」は9月17.18.24.25、10月01.02の6日間実施。また、任意調査も実施いただき多くのタカの渡りを観察できました。また事故も無く無事終了できました事お礼申し上げます。

7.8月の豪雨で林道の土砂崩れ等が各所で発生し福井A、ホノケ山、鉢伏山の3定点は調査できませんでした。鉢伏山に代わり調査した杉津では、1日で過去最多926羽のタカを観察できました。あと少しで初の四桁でしたのに残念！

各定点を担当された皆様から、今期の状況を以下にまとめて頂きました。

## 刈安山：橋崎

今年は昨年と違い、6日間の調査日の内1日だけ濃霧で調査が難しかったのですが、後の5日はスムーズに調査できました。調査状況ですが、例年通りタカが最初に上昇する所は飛翔ルートが展望台から遠く、鳥種の判別が困難でした。ただ、タカの渡りのメインコースでは無いですが、展望台西側の杉が今年数百本伐採され北西から南西までの展望が良くなり調査し易くなりました。更にメインコースである東側の高くなった雑木が整理されると、展望が非常に良くなり調査し易くなります。しかし、管理が石川県になるので難しいかも知れません。

今年は25日以外の調査日は、渡るタカの数で20～30羽と少なくちょっと残念でした。それでも、25日は探鳥会を兼ねたことで天が味方してくれたのか、鷹柱が4回も見られたこと、渡るタカの数で111羽と100羽越えとなったことで大いに満足しました。伐採した先の樹木に、冠羽を立て鋭い眼付きのクマタカがフィールドスコープを通してはっきりと見られ、探鳥会に参加された人たちも感動していました。

昨年も書きましたが、刈安山近辺にはクマタカの番いが居り、毎回出現します。また、ハイタカSPが多く、反対にハチクマは少なかった様に思われます。

調査最終日の2日は胸に縦縞が入るチゴハヤブサが1時間近く樹木に留まっているなど、タカの渡りとは違う面で色々貴重な場面に出会えたのは良かったと思います。

## 部子山：酒井

宝慶寺へ向かう林道、標高1100mの地点に定点を取りました。此处は西向きで眼下の池田町周辺のタカを調査しましたが、見下ろしで背景の山に溶け込むタカの姿を捕らえられず残念！ハリオアマツバメ50+羽の群れが見られました。

過去には1300m地点で調査した際、眼下の稜線から旋回上昇するハチクマを見ました。が長く見ていません。

9月17日、山頂で村上さんが調査された際、方角が違う南の稜線を飛去するハチクマ13羽が確認されています。

部子山山頂では、嶺南、嶺北両方の無線が聞こえるので、天気の良い日は山頂に登り中継基地として貢献していきたいと思います。



## 福井：柳町

福井市西部地区の高須町と中平町で、今年も頑張ってみました。国見岳森林公園に続く二枚田幹線林道でのポイントは、7月の大雨で通行不能！でした。

これら2定点からは、県境の刈安山～坂井平野が目の前に広がっていて、視野的には最高の観察地点ですが……。福井の2定点ではなかなかキャッチできません。たまに出てくるハチクマとサシバ、大きく見えるクマタカを皆で集中観察していましたが、矢良巢岳や杉津地点から「うわー！ドバーッとタカ柱や！」の無線連絡には、羨ましい……。！「もっと飛んできてもいい筈なのになあ〜。」眼力が落ちたのか？高すぎて見えないのか？それでもなんとか見つけよう！見つけよう！と我慢に我慢を重ねてのタカ見でした。

来年も頑張ってみよう！とお互いに励まし合っています。

## 矢良巢岳：横山

本年度秋期タカの渡り調査は、丹南ブロックとして、メインの矢良巢岳と酒井理事の部子山、加えてホノケ山を予定しましたが、夏の予期せぬ豪雨災害の影響もあってホノケ山は断念せざるを得ませんでした。代わりに花立峠を候補に入れたものの、矢良巢岳担当の藤本ブロック長に急用ができ、花立峠を中止し小生が矢良巢岳に入る事になりました。

事前調査も必要と考え、年次予定表以外にも何日間か入山を試みましたが、台風接近など天候の具合で、余り目立った成果は得られませんでした。

ただ、9月25日「タカの渡り探鳥会」当日の午後になって、動きのなかったサシバの予期せぬタカ柱の発生は、初めて見る参加者の皆様には相当のインパクトを与えた様子でした。自然相手のこと、期待通りになることは数少ないのですが、これからもこうした予期せぬ出会いを、味わって貰えればと願うものです。



## 杉津：武田

今季の調査は8月5日の大雨被害により鉢伏山への入山が不可能となったため、9月17日から10月1日までの6日間、鉢伏山の「北に派生する稜線」の海側、「杉津PA(標高240m)」で調査しました。17、18日は台風14号が接近している中、ハチクマ(17日:154羽、18日:378羽)主体で北稜線、北稜線海側を上昇し定点海岸沿いに南下や、海上上空を南西方向へ飛去する個体が多く見られました。台風通過後の24日はハチクマ主体で北稜線を上昇しましたが雲が厚く、高空を飛去したため確認数はあまり多くありませんでした。明けて25日は天気も回復しサシバ主体(サシバ745羽、ハチクマ173羽)で北稜線600m付近から海に向かって伸びる尾根を上昇し、高空で定點頭上、海岸沿い、定点東側を南下しましたが、時折鉢伏山方向へ飛去し南下する個体も多く、今季最高羽数(計926羽)を記録しました。また、矢良巢岳で確認した個体をキャッチする場面もありました。後半の9月29日、10月1日はサシバ主体でした。今季の調査では北稜線600m付近から海に向かって伸びる尾根上に出現し南下する個体が大半で、その多くが北稜線上に設置されている風況ポールの傍を通過し南下したのが印象に残りました。

## 天筒山：田川

天筒山は8月22日～10月26日まで45日間の調査。初認は9月3日のサシバに、早くもノスリから始まりました。一斉調査前の9月10日頃よりタカの渡りが多く成り、調査期間に設定した10月2日までに集中。総数の3/4(2547羽)が一斉調査期間に渡りました。また、総数は昨年より87羽増え3437羽を数えました。

今年は杉津のデータにも出ていますが、俗に言う鉢伏山以南の山並みから出る「山コース」より、海岸沿いの稜線から来る「海コース」が多く見られました。ただ9月25日、杉津で173羽のハチクマを観察していますが、天筒山では32羽しか再捕捉出来ていません。杉津から直接海を渡れば、奥本保で出る筈なのに再捕捉されず。山添いに北國街道から余呉湖へ渡ったのでしょうか?武田さんによると敦賀半島沿いに南下する個体を見たとのことなので、半島沿いに南下した後、嶺南の稜線沿いに渡ったのかも知れません。ところが父子で出て居らず?ルート不明で課題が残りました。

## 奥本保：松田

今年の調査は北寄りの風の日が多く、いつものコースから外れる日が多かったように思われます(いつも少なめですが)

そのような訳でいつもよりも一週間早く調査を始めました。

9月29日と10月1日は敦賀の大塚さんが奥本保へ調査に来られ、緻密な観察眼で確認数を増やすことができました。

9月11日	サシバ1羽	ハチクマ16羽	ミサゴ8羽	ツミ2羽	合計27羽	
9月12日	サシバ6羽	ハチクマ6羽	ノスリ2羽		合計14羽	
9月14日	サシバ1羽	ハチクマ2羽			合計3羽	
9月15日	サシバ2羽	ミサゴ2羽			合計4羽	
9月16日	サシバ1羽	ハチクマ2羽	ハイタカ1羽		合計4羽	
9月24日	0羽				合計0羽	
9月25日	ノスリ1羽	ミサゴ1羽			合計2羽	
9月26日	サシバ3羽	ノスリ1羽			合計4羽	
9月29日	サシバ3羽	ハチクマ1羽	ツミ5羽		合計9羽	
9月30日	ハチクマ1羽	ノスリ6羽	ミサゴ1羽		合計8羽	
10月1日	ハチクマ2羽	サシバ8羽	ミサゴ3羽	ハイタカ19羽	ノスリ4羽	合計36羽
10月2日	ノスリ3羽				合計3羽	

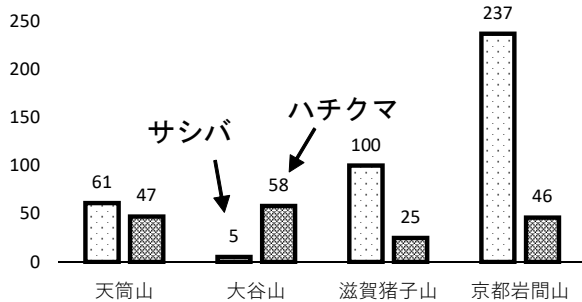
以上報告致します。

## 大谷山・赤坂山：平城

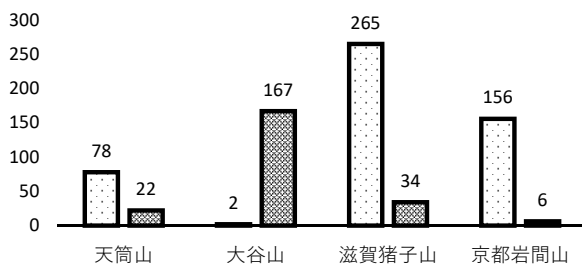
今年新たに追加した嶺南の調査地で敦賀市天筒山より直線距離で約20km南南東に位置します。天筒山を南下するタカのルートになっているのでは無いかと予想され、美浜新庄奥の滋賀県境付近から約1時間強の登山を経て到着する観察点です。赤坂山は、大谷山より約2km北北東に位置するが、赤坂山付近を通過する個体がそのまま南下して大谷山を通過することが確認できました。ここを通過したタカは大谷山の南南西に位置する函館山スキー場方面へ飛行することが分かりました。

大谷山・赤坂山で気づいたことは大きく3つあります。まず、9月中旬に通過するハチクマの個体数が、周辺の観測点に比べて異常に多いことです。（下図参照）

### 9月11日 通過数比較



### 9月12日 通過数比較



9月11日、大谷山はお昼頃に局地的な雨に見舞われたため、観測時間は午前中の2時間半ばかりであるにも関わらず、他地区よりもハチクマの出現数が多いのです。12日に至っては、他地区の5倍以上の羽数をカウントしています。おそらく、天筒山を通過していない多くのハチクマが利用しているルートがあると思われる。これについては、長年天筒山を観測している田川氏によると「天筒山の東の山並み」また「高速敦賀ジャンクション周辺」を通過する個体群があるのではないかと考えられるとのこと。来年以降の調査課題としましょう。

次の特徴は、飛来するサシバの数の少なさです。これは、昨年までの調査結果からサシバの多くは天筒山を通過した後、西方に位置する嶺南地方では無く滋賀方面へ南下する個体が多いと予想されていました。大谷山を調査地点に選んだのは、この予想を検証したいという思いからですが、結果的には、大谷山付近へは飛来していないことがわかりました。それではサシバはどこを通過しているのか、さらなる疑問が残りました。

3つ目は、タカが積乱雲を利用していることを目の当たりにしたことです。大谷山や赤坂山は標高800mを超える山で、観察した9月11日や12日は局地的に積乱雲が発生しました。タカたちが山肌を旋回しながらこの積乱雲の方向へ移動していき雲底から雲中に上昇消失することが何度か見られました。また黒く発達した積乱雲の中～高度の雲中からハチクマが次々に流れ出てくることも数回ありました。このことは、タカが上昇気流で発達する積乱雲を積極的に利用していると考えて良いのではないのでしょうか。この現象は、9月26日の河内の森でも観察できました。

### 河内の森：平城

河内の森は、今年は9月下旬に3回調査したのみです。今年の9月は台風がいくつも襲来し、しかも日本の南岸を通るものが多かったせいか、北寄りの風の日が多く、昨年までの調査結果の通り、天筒山を通過した個体数に比べて、嶺南では飛来数をはるかに少なくなりました。この状況の中、微風であっても東～南寄りの風が変わってから30分程度経つと、ポツリポツリとハチクマやツミ、ノスリなどが現れました。また、北寄りの風になると飛来数が急に少なくなることが確認でき、これまでの結果と同様、嶺南では南寄りの風の時は飛来しやすいが北寄りの風では余り来ないことを裏付けることとなりました。

もう一つ付け加えると、これは河内の森だけで無いのですが、9月下旬になって飛来するハチクマは幼鳥が非常に多いことに気がつきました。9/26、10/1、10/2の3日間で撮影できたハチクマ13羽中、幼鳥は12羽でした。

ハチクマ幼鳥  
(両翼の先が黒い)  
9/26 河内の森にて



**今年の纏め：田川**

成果：（嶺北）刈安山～福井C～（嶺南）天筒山と渡りを捕捉できたか？

10/2刈安山でサシバ20羽のタカ柱、その後 福井Cで11羽再捕捉？更に天筒山で6羽再捕捉？同一の群れで有れば嶺北 → 嶺南を飛ぶタカを捕捉できたのかも知れません。（下表参照）

刈安山 スタート		
11:55	サシバ	20

刈安～福井間 25km 30～45分		
到着予想時間	12時40～50分	
福井C	遅れて到着？	
13:05	サシバ	4
13:09	サシバ	7
計		11

中平～天筒山 50km 1.5時間			刈安山～天筒山 75km		
到着予想時間	14時30分+		刈安山～天筒山計算では		
天筒山			2H+～2.5Hで14時半前後通過予想		
14:38	サシバ	6	左の仮定時間と同じ		
14:41	サシバ	1			
計		7			

**番外編：コウノトリ**

10月2日奥本保でコウノトリ7羽が北東へ飛去するのが確認されました。

福井県自然環境課へ連絡したところ、この日の夕方から越前市広瀬町で8羽の群れが観察されて居り、うち6羽は前日まで居なかったとのこと。奥本保から越前市へ移動した可能性が有ります。今後もコウノトリの移動を観察されたら、お知らせ下さい。



コウノトリ イメージ (別日撮影)



タカ柱 イメージ(嶺南で撮影)

**来年への課題：田川**

1. 昨年新たなルートが判明した福井ブロックでの渡りルートの解明継続。
2. 杉津、鉢伏山はよく出るのが判った。此処より上流は何処から来るのか？ホノケ山調査復活、新たな定点探査か？
3. 嶺南での新たな渡りルートの解明

調査に参加頂いた皆様を以下に記し、お礼に代えさせていただきます。

赤星 昇 赤間善男 麻畑久人 井尻雅己  
 大坂英樹 大塚育恵 大西五十二 大橋正明  
 大宮正太郎 組頭五十夫 加美川文雄  
 香川正行 小嶋明男 越野恵子 酒井敬治  
 佐野さゆり 鈴川文夫 瀬戸靖夫 高谷浩一  
 武田真澄美 田原伸吾 辻義次 橋崎建次  
 藤本尚子 平城常雄 堀 孝雄 蒔田憲三  
 松田信廣 村上公輝 柳町邦光 矢部正美  
 矢部芳子 山崎範子 山根眞一 横山八八  
 吉田麻里子 松村俊幸 西村直人 田川 亨

計39名